

## 八丈島の火山活動解説資料（平成 30 年 2 月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### 活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図 1）

楊梅ヶ原<sup>ようめがはら</sup>監視カメラ（西山山頂の南南東約 5 km）による観測では、西山山頂部に噴気は認められません。

- ・地震や微動の発生状況（図 2 - 、図 3）

八丈島周辺での火山性地震火山性地震は少なく、静穏に経過しています。火山性微動は観測されていません。

- ・地殻変動の状況（図 2 - 、図 4）

GNSS<sup>1)</sup>連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図 1 八丈島 西山山頂部の状況  
(2月10日、楊梅ヶ原<sup>ようめがはら</sup>監視カメラによる)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（[http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧できます。

次回の火山活動解説資料（平成 30 年 3 月分）は平成 30 年 4 月 9 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び東京都のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号 平 29 情使、第 798 号)。

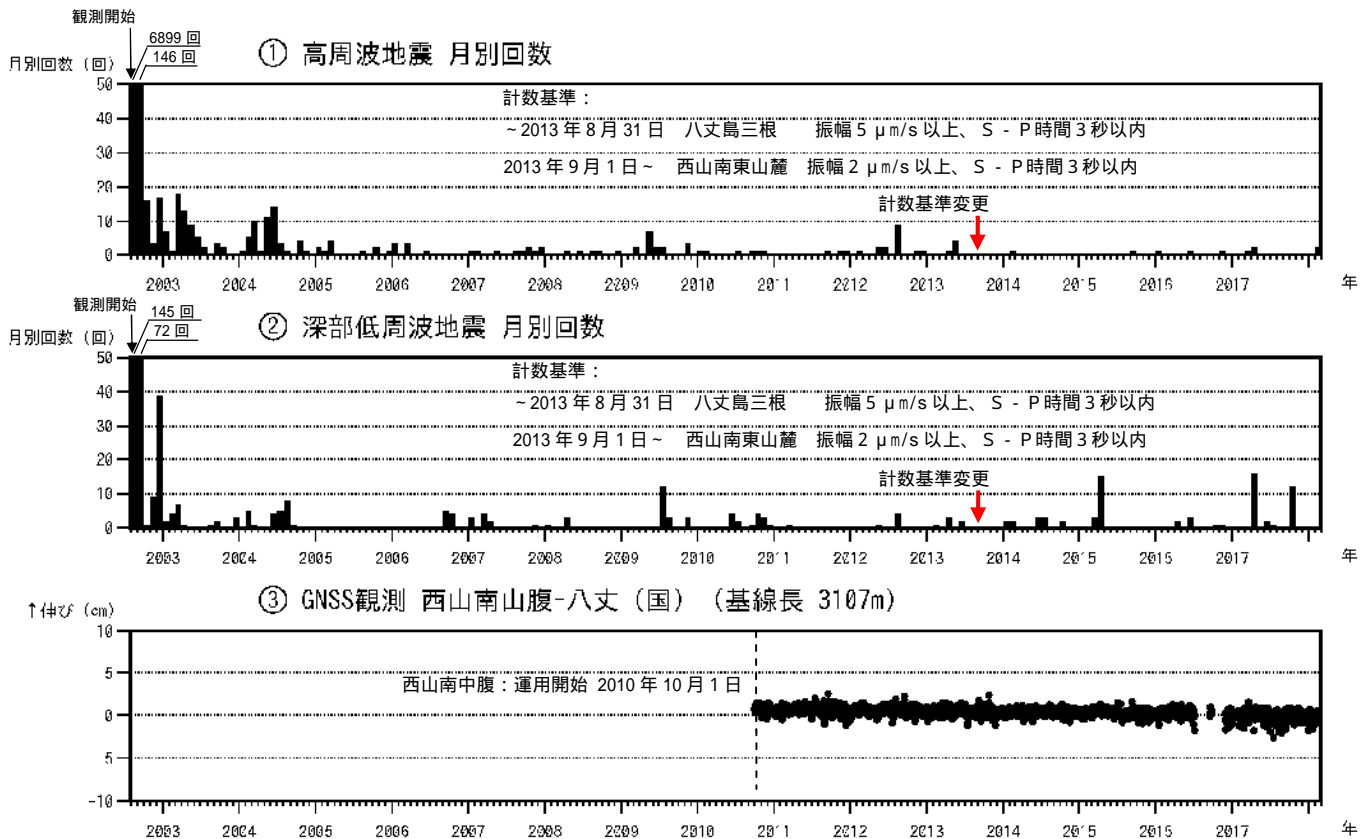


図2 八丈島 火山活動経過図(2002年8月13日~2018年2月28日)

地震回数の計数基準

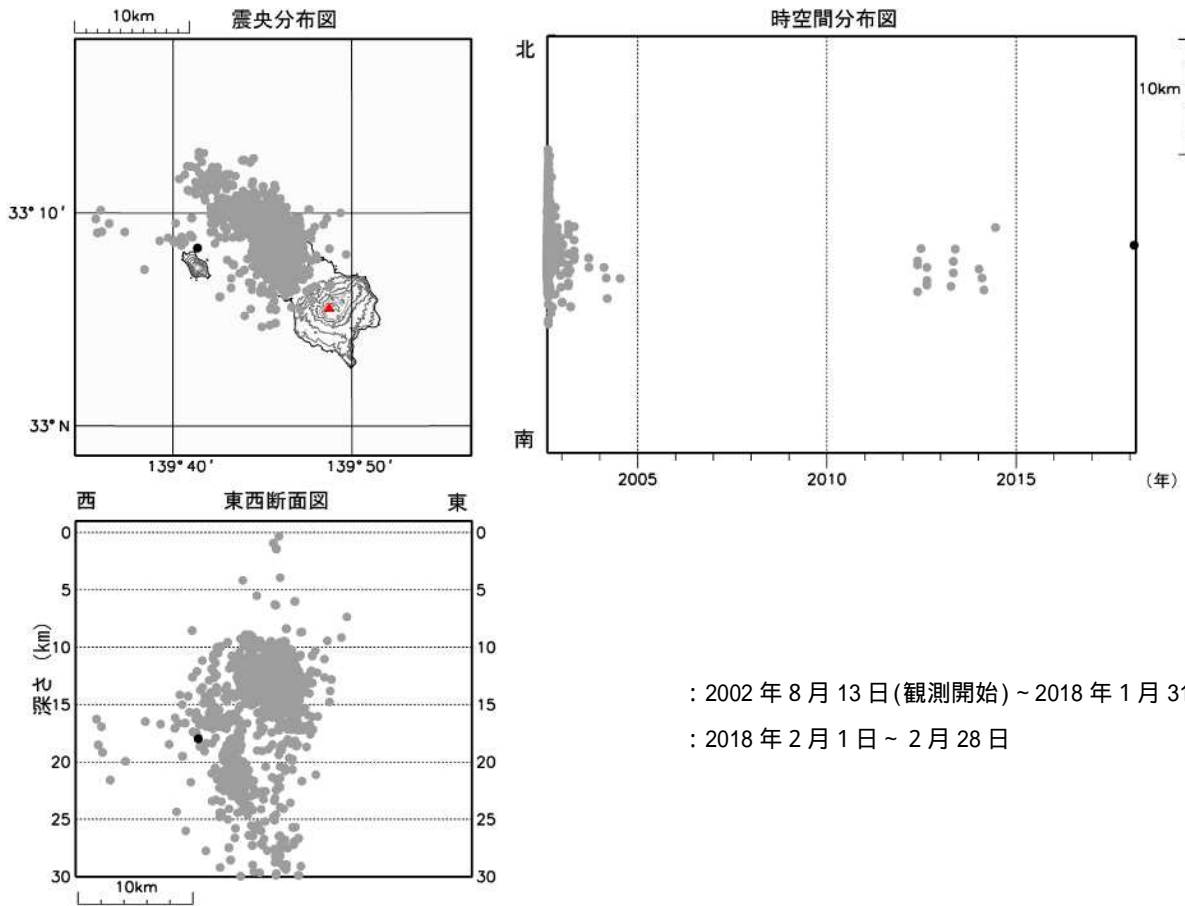
2013年8月31日まで八丈島三根 振幅5  $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間3秒以内

2013年9月1日から西山南東山麓 振幅2  $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間3秒以内

(国): 国土地理院、図4の基線 に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示しています。

2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。

- 地震活動は静穏な状態で経過しています。また、GNSS連続観測の基線変化には火山活動によると思われる変動は認められません。



: 2002年8月13日(観測開始)~2018年1月31日  
 : 2018年2月1日~2月28日

図3 八丈島 震源分布図(2002年8月13日~2018年2月28日)

・今期間、従来からみられている八丈島の西方沖の深さ約15~20km付近に震源が求まりました。



図4 八丈島 観測点配置図

GNSS基線 は図2の に対応しています。

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所、(都): 東京都